

スウェーデンの児童書等に係る報告書

聖徳大学 教育学部 児童学科 准教授
柏村裕子

はじめに

スウェーデンは日本から直線距離で約 8000 km 離れている。冬は長く、極北の地にオーロラが輝く。夏は短く、人々は太陽を求めて屋外で休暇を過ごす。地理的な隔たりにも関わらず、日本人にとってスウェーデンは親しみのある国である。その理由のひとつは、スウェーデンで生まれた子どもの本が日本でながく愛されているからであろう。アストリッド・リンドグレン (Astrid Lindgren) の『長くつ下のピッピ』(Pippi Långstrump【Y8-A5944 等】)

(【】内は国際子ども図書館請求記号、以下同様) や、セルマ・ラーゲルレーヴ (Selma Ottilia Lovisa Lagerlöf) の『ニルスのふしぎな旅』(Nils Holgerssons underbara resa genom Sverige【Y17-A7900】) は、児童文学としてのみならず絵本やアニメーション、キャラクターグッズを通して親しまれている。またエレン・ケイ (Ellen Key) 『児童の世紀』(Barnets århundrade)、近年では 5-6 歳児を対象とした自然環境教育プログラム「森のムッレ教室」や、読書に困難を抱える人のための読みやすい本「LLブック (Lättläst)」といった取り組みも、日本の教育観や読書観に影響を与えている。

もちろん交流は一方通行ではない。日本のマンガやアニメーションはスウェーデンの若者にも愛好者がおり、日本で活躍しているスウェーデン人マンガ家や落語家もいる。

国際子ども図書館はスウェーデンの子どもの本や関連研究書の収集を通して、日本とスウェーデンの文化交流を支えてきた。本レポートは国際子ども図書館の所蔵資料の評価を通して、両国の理解がより一層深まるように提案をおこなうことを目的としたい。

1 スウェーデンにおける子どもの本の概要

1-1 スウェーデンの概要

スウェーデンは、正式名称をスウェーデン王国 (Konungariket Sverige) といい、ヨーロッパ北部スカンジナビア半島東側に位置する国である。面積は約 45 万平方キロメートルで、日本の約 1.2 倍、本州の約 2 倍の広さを有する。総人口は約 1,052 万人である (2022 年現在)。国土の大半を森林が、約 10% を湖と川が占める自然豊かな国である。首都はストックホルムに置かれ、公用語はスウェーデン語である。スウェーデン語はインド・ヨーロッパ語族ゲルマン語派のうち北ゲルマン語群に分類され、隣国のノルウェー語やデンマーク語と近い。東側のフィンランドは、フィンランド語とスウェーデン語が公用語になっている。これはスウェーデン語を母語とするフィンランド人がいるためである。児童文学作家のトー

ベ・ヤンソン (Tove Jansson) はスウェーデン語系フィンランド人であるため、作品はスウェーデン語で書かれている。

スウェーデンの住民の多くは北方ゲルマン系だが、遊牧生活を伝統にもつサーミの人々や、移民・難民としてスウェーデンに移住した人々も多数暮らしており、多文化共生国家となっている。主要産業は、自動車を含む機械工業、化学工業、林業、IT産業である。立憲君主制を採用している。

スウェーデンの教育課程は、義務教育である基礎学校 (Grundskolan) 9年間、高等学校 (Gymnasieskolan) 3年間、大学3年間で構成され、基本的に授業料は無料である。就学前の1~6歳には幼保一体型の就学前学校 (Förskolan) があり、任意で参加することができる。基礎学校入学前の1年は就学前準備学級 (Förskoleklassen) に参加することになっており、2018年から義務教育のひとつに加えられた。他に特別支援学校、サーミ語学校も擁する¹。

1-2 スウェーデンの図書館活動

スウェーデンの公共図書館は国民の自主的な読書サークルから発展したものであり、現在は生涯学習の場として様々なサービスを提供している。すべての人へ平等にサービスを提供するという理念のもと、図書館へ来館することが難しい人、スウェーデン語を母語としない人、読むことに困難を抱えた人等にむけた取り組みも行われている。

子ども向けサービスも、むろん活発におこなわれている。就学前学校の多くには公共図書館との連携プログラムがあり、基礎学校ではクラスで授業時間に公共図書館を訪れることも少なくない。公共図書館には児童書専門の司書がおかれ、読み聞かせやブックトーク、図書館利用のアドバイスもおこなっている。

ストックホルムには子どもや若者をメインターゲットにした図書室がある。文化センター (Kulturehuset) 内にある「子どもの部屋 (Rum för barn)」²は0歳から11歳までの子どもを対象にしており、多言語による読み聞かせやゲームなどのプログラムを提供している。同施設内には10歳から13歳の子どもをターゲットにした「10歳から13歳 (TioTretton)」³もある。また、ストックホルム市立図書館分館には、「メディアの拠点 (PUNKTmedis)」という13歳から19歳を対象としたコーナーが設けられた。

スウェーデンの図書館の特徴のひとつは、インターネットの活用である。図書館間横断蔵書検索システム Libris⁴は国立図書館 (Kungliga Biblioteket) によって運営されている。このシステムでは、各図書館の蔵書検索や予約だけでなく、データファイルの購入、インターネット公開資料「文学バンク (Litteraturbanken)」の検索などが可能である。なお文学バンクとは、スウェーデンの小説など重要な文学遺産をデジタルアーカイブ化したもので、国立図書

¹ 学校教育庁 (Skolverket) ホームページ <https://www.skolverket.se/>

² Rum för barn 公式サイト <https://kulturhusetstadsteatern.se/bibliotek/rum-for-barn>

³ Tiotretton 公式サイト <https://kulturhusetstadsteatern.se/bibliotek/tiotretton>

⁴ Libris ホームページ <https://libris.kb.se/>

館やスウェーデン・アカデミー等から成る非営利団体によって運営されている。

1-3 出版状況

毎年、スウェーデン児童図書研究所 (Svenska Barnboksintitutet, 以下 Sbi) が年次報告会 (Bokprovning) を開催し、出版状況を報告している。1993年以降の報告は Sbi のホームページから閲覧することができる。2022年については以下のように述べられている⁵。

子どもの本の年間納品数は2,183冊で、前年より21タイトル減少(1%減)しているがほぼ横ばいである。絵本など画像ベースのカテゴリーが増加し、文字ベースのカテゴリーが減少している点が傾向として挙げられる。スウェーデン語のオリジナル作品が全体の68%を占め、翻訳は32%である。翻訳書の割合は1990年初頭に統計をとり始めて以来の低い数字となっている。翻訳書の原書の言語の割合では英語からの翻訳が63%を占めているが、2021年の466冊から425冊へと冊数は減少している。言語別ではフランス語、ドイツ語、デンマーク語、ノルウェー語が続く。翻訳冊数が増えているのは日本語からの翻訳で、マンガへの関心の高まりが背景にあると考えられている。新刊書数はわずかに増えているが、再版本は減少を続け10年前の約1/4となっている。これは本が再販される場合に、電子書籍やオーディオブック、プリント・オンデマンド・サービスでの配信がなされているからだと考えられる。

1-4 スウェーデンの子どもの本

(1) スウェーデンの子どもの本のはじまりと、第一次黄金期

スウェーデンの児童文学はドイツやイギリスの翻訳・翻案を受容するところから始まった。1591年に出版されたラウレンティウス・ヨハニス・ラエリウス (Laurentius Johannis Laelius) による翻案児童文学『乙女の鏡』(*Een sköön och härligh jungfrw speghel*) がスウェーデンの最初の児童文学だと言われている。もともとなったのはドイツの牧師コンラッド・ポルタ (Conrad Porta) によって書かれた女子教育のための書である。1600年代も翻訳が主流であったが、スウェーデンオリジナルの子ども向け聖書や物語なども少数ながら出版されるようになった。1840年代、フィンランドのサカリス・トペリウス (Zachris Topelius / Zacharias Topelius⁶) が書いたイマジネーション豊かな児童文学はスウェーデン語で書かれておりスウェーデンでも愛読された。

大きな転換が起きたのは19世紀末から20世紀初頭である。出版技術の向上、教育改革、女性解放といった社会変革に伴い「子ども」が注目されるようになった。特に、1900年に発表されたエレン・ケイの『児童の世紀』はスウェーデンのみならず世界の児童観に影響を与えた。

⁵ Sbi Bokprovning 2023 <https://www.barnboksintitutet.se/bokprovning/bokprovning-2023/>

⁶ 著作者名としては洗礼名であるサカリアス (Zacharias) をもちいている。

1891年に「ユールトムテン」(*Jultomten*)という子ども向けクリスマス雑誌が発行された。この雑誌から、イェンニ・ニーストロム (*Jenny Nyström*)、エルサ・ベスコフ (*Elsa Beskow*)、カール・ラーション (*Carl Larsson*) といった後に子どもの本でも活躍するイラストレーターが誕生する。

スウェーデン最初の絵本はニーストロムの『子ども部屋の本』(*Barnkammarens bok*)⁷(1882)である。これは、スウェーデンの伝承詩にスウェーデンの画家が絵をつけた、まさに「スウェーデン的」な絵本であった。この絵本を皮切りに、オッティリア・アーデルボリ (*Ottilia Adelborg*)、ナンナ・ベンディクソン (*Nanna Bendixson*)、イーヴァル・アロセニウス (*Ivar Arosenius*) らが絵本を発表した。1897年に、エレン・ケイの影響を受けたベスコフが『ちいさな ちいさな おばあちゃん』(*Sagan om den lilla, lilla gumman* 【Y17-B2367等】)で絵本作家としてデビューしている。現在、ベスコフはスウェーデンを代表する絵本作家のひとりとみなされている。なお、現在も愛唱されるアリス・テグネール (*Alice Tegnér*) の童謡が、アーデルボリ、ベスコフなどの挿絵をつけた絵本となって盛んに愛読されたのもこの時期である。

1906年、ノーベル文学賞作家のラーゲルレーヴが教育委員会からの依頼で子どもに地理を教えるために『ニルスのふしぎな旅』第一部を発表。翌年1907年に第二部を出版した。現在では児童文学の古典として数えられている。

スウェーデン独自の児童文化・文学が花開いたこの時期は、子どもの本の第一次黄金期とみなされている。

(2) 第二次黄金期

第二次世界大戦後、経済的安定を背景にすぐれた子どもの本が誕生した。リンドグレーンは1946年『長くつ下のピッピ』を発表。ピッピは子どもの心を明るくしただけでなく、戦後の子ども観にも影響を与えた。リンドグレーンはピッピ発表後も「エーミル (*Emil*)」シリーズや「ロッタちゃん (*Lotta*)」シリーズ、「やかまし村の子どもたち (*Alla vi barn i Bullerbyn*)」シリーズなど、現在でも世界中で愛読される児童文学を発表し続けた。

ヤンソンが書いた「ムーミン (*Mumin*)」シリーズは劇やマンガ、アニメーション、絵本にもなり、今なお世界中で人気が高まっている。また大人向けの小説やエッセイも愛読者がおり、作家作品研究も盛んである。

また、言葉遊びを生かしたゆかいな詩で人気を得たのは、レンナート・ヘルシング (*Lennart Hellsing*) である。ヘルシングの詩は、ステイグ・リンドベリ (*Stig Lindberg*)、ポール・ストロイエル (*Poul Ströyer*) など人気のイラストレーターが挿絵をつけた絵本でも愛されている。

第二次世界大戦後のこれら国民的な作家が現れ活躍した時期は、第二次黄金期とみなさ

⁷ ブックリスト No.5、6

れている。

(3) 1900年代後半

1960年代から70年代は子どもの権利について活発な議論が行われるようになり、子どもの本も現実社会の課題を反映した内容の作品が増えていく。マリア・グリーペ (Maria Gripe) は多様な家庭環境のなかで自我をもち成長していく子どもたちの姿を、繊細な心理描写をからめて描き出した。トーマス・ベリイマン (Thomas Bergman) は障害を持つ子どもの姿を写真絵本によって伝えた。

いっぽう現実社会から距離をおいた、幼い子向けのファンタスティックな絵本も登場する。インゲル・サンドベルイ (Inger Sandberg) とラッセ・サンドベルイ (Lasse Sandberg) の「おぼけのラーバン (Lilla spöket Laban)」シリーズや「小さいアンナちゃん (Lilla Anna)」シリーズが代表例として挙げられるであろう。

1980年代から90年代は、アメリカの心理学者ブルーノ・ベッテルハイム (Bruno Bettelheim) 『昔話の魔力』 (The uses of enchantment 【YZ55-A126】) の影響もあり、世界的にファンタジーや昔話に関心が向かった。この時期スウェーデンでは男性の児童文学作家の活躍が目立つ。ペーテル・ポール (Peter Pohl)、マッツ・ヴォール (Mats Wahl)、ウルフ・スタルク (Ulf Stark) が好例として挙げられるであろう。スタルクは幼年文学からYA文学まで幅広いジャンルで作品を発表している。思春期の葛藤、死といった繊細なテーマを扱いながらもユーモアと救いを感じさせる作品群は世界的にも評価が高い。没後も数多くのイラストレーターがスタルクの文章に挿絵を描いて発表しており、まだまだ新刊が発売されている。引き続き注目したい作家である。

第二次世界大戦中にスウェーデンへ疎開した姉妹の青春を描いたアニカ・トール (Annika Thor) の「ステフィとネッリ (Steffi och Nelli) の物語」4部作 (【Y8-A4393】、【Y8-B13721】、【Y8-A4389】、【Y8-B5638】) も忘れ難い作品である。

絵本のジャンルでは、エヴァ・エリクソン (Eva Eriksson)、アンナ・クララ・ティードホルム (Anna-Clara Tidholm)、レーナ・アンディション (Lena Anderson)、スヴェン・ノードクヴィスト (Sven Nordqvist) らが活躍している。

(4) 2000年～現在

2000年以降は多様性の時代である。

スウェーデン語に男性女性共に使用される人称代名詞「hen」が登場したことと呼応するように、子どもの文学でも登場人物の性別を明らかにしない作品が登場するようになった。スティーナ・ヴィルセン (Stina Wirsén) の『だれのズボン?』 (Vems byxor? 【Y17-B14627】) から始まる「やんちゃっ子 (Vem?)」シリーズなどが例に挙げられるであろう。この作品は親子の性別を明確にしないことで、家族構成や、旧来の性別による家庭内役割分担からも自由である。

多様性をテーマにした作品も多く作られている。ソフィア・ヘドマン (Sofia Hedman) 文、エミリー・ゴードレール (Emelie Gårdeler) 絵『少年と海』 (*Pojken och havet* 【Y17-B19434】) は、海についての父と息子の対話から、先天盲の少年が感じている世界を浮かび上がらせる美しい絵本である。ピア・リンデンバウム (Pija Lindenbaum) の『リラ・ズラタンと大好きなおじさん』 (*Lill-Zlatan och morbror raring* 【Y17-B19271】) は LGBTQ+ のテーマをからめながら、子どもが家族へ向ける愛情と独占欲、他者の受容という普遍的なテーマを描く。

エマ・ヴィルケ (Emma Virke) など新しい絵本作家が登場する一方で、リンドグレンやマリア・グリーペの再評価⁸、ムーミンやベスコフのイラストレーションを使った商品の展開、リンドグレンの物語に新たなアーティストが挿絵を描いた作品の出版なども相次いでいる。

子どもの読解力向上をめざして政府が子どもの読書推進に力を入れていることも 2000 年以降の特徴と言ってよいだろう。2016 年に秋休みを「読書休暇 (Läslov)」と名付け、さまざまな読書キャンペーンの企画をしている。また、スウェーデン・アクセシブル・メディア庁 (Myndigheten för tillgängliga medier / The Swedish Agency for Accessible Media、以下 MTM) では、子どもを含む読書に困難を抱える人々のために読みやすい本の研究や情報提供をおこなっている。

1-5 児童文学に関連する主な賞

(1) アストリッド・リンドグレン記念文学賞 (Astrid Lindgren Memorial Award / ALMA)

リンドグレンの功績を讃えるために 2002 年秋にスウェーデン政府が創設した国際的な文学賞。対象となるのは子どもの本の作家、画家、ストーリーテラー及び子どもの読書活動に貢献した個人や組織である。日本人では 2005 年に荒井良二が受賞している。

(2) エルサ・ベスコフ賞 (Elsa Beskow-plaketten)

絵本作家エルサ・ベスコフの名前にちなみ、スウェーデン図書館協会が 1958 年に創設。前年までにスウェーデンで刊行された絵本や児童図書の挿絵を描いたイラストレーター・写真を撮影した写真家が選考対象である。ヤンソン、ウルフ・レーフグレン (Ulf Löfgren)、イロン・ヴィークランド (Ilon Wikland)、インガ・ボリィ (Inga Borg)、ビヨルン・ベルイ (Björn Berg)、ハラルド・グリーペ (Harald Gripe)、アンナ・ヘグルンド (Anna Höglund)、エヴァ・リンドストローム (Eva Lindström)、クリスティーナ・ディーグマン (Kristina Digman) などが受賞している。

⁸ 2000 年代に入り戦後ドイツ書店協会平和賞受賞時のスピーチが再出版翻訳され、社会のオピニオンリーダー的な側面にも光が当てられている。日本では『戦争は絶対ダメ』(石井登志子訳、岩波書店、2015)。原題は *Aldrig våld!* (ブックリスト No. 10)、初版 1978 年発行、2011 年に新版が発行されている。

(3) ニルス・ホルゲション賞 (Nils Holgersson-plaketten)

ノーベル文学賞受賞作家ラーゲルレーヴが書いた『ニルスのふしぎな旅』の主人公ニルス・ホルゲションにちなみ、スウェーデン図書館協会が1950年に創設。前年までにスウェーデンで刊行された児童文学の作家が対象である。

リンドグレーン、ヘルシング、ベスコフ、ヤンソン、マリア・グリーペ、スタルク、トールをはじめ、ハリー・クルマン (Harry Kullman)、イルメリン・サンドマン=リリウス (Irmelin Sandman Lilius)、バルブロ・リンドグレーン (Barbro Lindgren)、ウルフ・ニルソン (Ulf Nilsson) などが受賞している。

1-6 主な研究機関・団体

スウェーデンの児童文化・文学の研究機関として第一に挙げられるのは Sbi であろう。スウェーデンで出版された子どもの本の収集と統計、研究をおこなっている。また、オープンアクセスの学術ジャーナル *Barnboken: Journal of Children's Literature Research*⁹ の発行、学術書シリーズ Svenska barnboksinstitutets skriftserie の各出版社との共同出版といった活動もおこなっている。

ストックホルム大学には児童文化研究センター (Stockholms universitet Centrum för barnkulturforskning) がおかれ、研究のほか、一般向けセミナーの実施や児童文化研究叢書 *Barnkulturskrifter* の発行をおこなっている。

政府機関である国立文化評議会 (Kulturrådet) が、毎年児童図書の推薦図書リストを発表している。このリストは年齢別になっている他、スウェーデン語以外の言語の本や LL ブックなどを含んでいる点に特徴がある。

読書支援については、読書運動 (Läsrörelse)¹⁰ が「あなたの子どもに言葉を」をモットーに2000年より活動をおこなっている。また、前述のとおり MTM が読書に困難を抱える人々が読書を楽しめるように、研究や情報提供をおこなっている。

1-7 神話・昔話

(1) 昔話

ロマン派による昔話の蒐集再話の影響を受け、スウェーデンでもグンナル・オーロフ・ヒュルテーン=カヴァリウス (Gunnar Olof Hyltén-Cavallius) とジョージ・スティーヴンズ (George Stephens) が、昔話の蒐集をおこない『スウェーデンの昔話と英雄譚』 (*Svenska folksagor och äfventyr*)¹¹ (1844-49) にまとめた。続くアウグスト・ボンデソン (August Bondeson) やニルス・ガブリエル・ユールクロウ (Nils Gabriel Djurklou) らが土地の言葉を生かした再話をおこなった。これらのスウェーデンの豊かな昔話の数々は、クララ・シュトローベ (Klara

⁹ *Barnboken* ホームページ <https://barnboken.net/index.php/clr>

¹⁰ Läsrörelse ホームページ <https://www.lasrorelsen.nu/>

¹¹ ブックリスト No.88

Stroebe / Clara Stroebe) のドイツ語訳等を経て世界に知られるようになっていった。

後年刊行された昔話集には、エグロン・ルンドグレン (Eggon Lundgren)、ラーション、ベスコフ、ヨーン・バウエル (John Bauer)、アイナー・ノレリウス (Einar Norelius) など有名画家が挿絵を手掛けた書籍も多い。これらの書籍は美しいばかりでなく、トルロやトムテといったスウェーデン昔話固有の妖精たちがどのように視覚化されてきたのかを知る手掛かりとしても貴重な資料であると考えられる。

(2) 神話

1397年、デンマーク主導のもとにデンマーク、スウェーデン、ノルウェーが統一された。その後、スウェーデンが独立を果たしたのは1523年である。そのため北欧神話が北欧全体にかかわるものとして捉えられる。北欧神話は児童文学にも影響を与えており、その研究は児童文学研究全般にかかわるものとして注目していく必要がある。

2 国際子ども図書館の所蔵資料の評価

2-1 国際アンデルセン賞受賞作家の収集状況

(1) アストリッド・リンドグレン

国際子ども図書館ではリンドグレンの著作が網羅的に揃えられており、リンドグレン文学がどのように画家ヘイマジネーションを与えてきたかについても提示できるコレクションになっている。今後も継続的に収集されることが望まれる。

(2) トーベ・ヤンソン

研究書を含め作品が網羅的に揃えられている。ヤンソンの研究書は邦訳も多いが、英語、フィンランド語、スウェーデン語と様々な言語によって書かれているため、これからも継続的に幅広く資料収集をおこなうことが望まれる。

(3) マリア・グリーペ

スウェーデン語による原典及び研究書の収集が望まれる。スウェーデンでグリーペの代表作とみなされている『アグネス・セシリア』(Agnes Cecilia)、『スカラベは夕暮れに飛ぶ』(Tordyveln flyger i skymningen 【Y8-B2121】) は、国際アンデルセン賞受賞後に書かれたものであるためか、未邦訳なためか、日本ではあまり知られていない。つまり、グリーペの業績がまだ十分に日本へ伝わっていないと考えられるのである。グリーペ生誕100年である2023年に合わせスウェーデンではグリーペの再評価を試みる論考が出版されたり、新版が発売されていたりしている。この機会に日本でもグリーペの作品を網羅的に収集し、翻訳・研究が盛んになることを望む。

(4) ファイナリスト

ファイナリストであるヘルシング、バルブロ・リンドグレン、スタルク、トールらもスウェーデン児童文学史上重要な作家である。すでに代表作は所蔵されているが、今後も新刊や研究書などの収集を続けていきたい作家である。

2-2 アストリッド・リンドグレン記念文学賞（ALMA）受賞作家の収集状況

受賞作家の作品はすべて所蔵されている。受賞作家の作品は児童文学史上重要というだけでなく、スウェーデンがどのような作品や活動を評価しているのかを知る手掛かりとなるため、今後も継続的に収集されることが望まれる。

2-3 エルサ・ベスコフ賞受賞作品の収集状況

概ね対象作品が所蔵されており、特に2000年以降は原著が収集されている点が高く評価できる。50年以上続く権威ある賞であるエルサ・ベスコフ賞は、各時代の児童文学の特徴を理解するためにも網羅的に収集されることが望ましい。そのために課題となるのは過去作をどのように収集するかという点であろう。当時の書籍を入手することが困難な場合は、新版の情報や、インターネット公開されているデジタル資料の情報を得ることなども視野に入れてみてはどうだろうか。

2-4 ニルス・ホルゲション賞受賞作品の収集状況

エルサ・ベスコフ賞と同様に、概ね対象作品が所蔵されており、特に2000年以降の原著が網羅されている点が評価される。今後も継続的に受賞作を収蔵するとともに、過去の受賞作を補完することによってより強固なコレクションが形成されることが望まれる。

2-5 神話・昔話の収集状況

「三つの願い」「仕事をとりかえたおかみさんとだんなさん」「私の召使ラッセ」など、スウェーデンの昔話は翻訳絵本や昔話集を通して日本人に馴染みのあるものが少なくない。ただし原書の蔵書数が充実しているとは言い難い。古典的資料は入手が困難であるということが一番の理由であろう。新版の収集や、インターネット上で公開されているデジタル資料の紹介を積極的におこなっても良いのではないだろうか。また昔話集には、スウェーデンの有名な画家が挿絵をつけたものも少なくない。口承の登場人物たちのイメージの変遷を知るうえでも、これらの書籍の所蔵も増えることを期待したい。

以上、国際子ども図書館の選書基準に基づき蔵書評価を試みた。スウェーデンを代表する作家や作品、主な児童文学研究資料が系統的に収集され充実したコレクションが構築されている。さらに現在スウェーデンが力を入れているLLブックが収集されている点も評価されるべき点として追記したい。

3 選書のための情報

3-1 作家、画家

No.	名前	解説
1	アストリッド・リンドグレン	<p>国際アンデルセン賞受賞作家 スウェーデンの代表的な挿絵画家との共作も多い 現在、アストリッド・リンドグレン・カンパニー (Astrid Lindgren Aktiebolag) が著作物の管理をおこなっている https://www.astridlindgren.com/se</p>

3-2 児童文学賞

スウェーデンには文化活動促進のため多くの児童文学賞がある。人気のある作家、重要な作家は複数受賞している例が多く、すべてを網羅的に収集する必要はないが確認しておく
とよい。また、スウェーデンを含む地域的な児童文学賞についても、スウェーデンの作品が
受賞する場合があるほか、地域全体の児童文学の傾向が伺えるため参考として挙げた。

3-2-1 スウェーデンの児童文学賞

No.	賞名	概要	優先度
1	アストリッド・リ ンドグレン記 念文学賞	<p>アストリッド・リンドグレンを記念して政府が制 定する国際的な児童文学賞。 https://alma.se/en/</p>	代表作を 収集
2	エルサ・バスコフ 賞	<p>スウェーデン図書館協会選定 https://www.biblioteksforeningen.se/</p>	受賞作を 収集
3	ニルス・ホルゲシ ョン賞	<p>スウェーデン図書館協会選定 https://www.biblioteksforeningen.se/</p>	受賞作を 収集
4	八月賞 Augustpriset	<p>スウェーデン出版社協会選定 https://augustpriset.se/</p>	可能であ れば収集
5	リンネ賞 Carl von Linné- plaketten	<p>スウェーデン図書館協会選定 https://www.biblioteksforeningen.se/</p>	参考
6	アストリッド・リ ンドグレン賞	<p>児童書出版 Rabén & Sjögren 選定 https://www.rabensjogren.se/</p>	参考
7	スウェーデン放 送児童書賞	<p>子ども審査員が選定、スウェーデン放送局が授与 https://sverigesradio.se</p>	参考
8	書店協会賞	<p>書店員によって選定、スウェーデン書店協会授与</p>	参考

	BMF-plaketten	https://svbmf.se/din-bok-vart-val/	
9	炎のスピリット賞 Eldsjälspriset	スウェーデン児童図書アカデミー選定 https://www.barnboksakademin.com/eldsjal/index.shtml	参考
10	スランベール賞 Slangbellan	新人児童文学作家のデビュー作に対して児童文学作家協会が選定 https://forfattarforbundet.se/om-oss/sektioner/bult/slangbellan/	参考
11	ゾゾ賞 Heffaklump	スウェーデン教育放送選定 https://www.expressen.se/kultur/heffaklumpen/	参考
12	シュルストロム児童青少年文学賞 Schullströmska priset för barn- och ungdomslitteratur	スウェーデン・アカデミー選定 https://www.svenskaakademien.se/	参考
13	スノーボール賞 Snöbollen	北部青年協会選定 ウメオ国際文芸フェスティバルで授与 https://www.bilderbokspriset.se/	参考
14	捜査犬文学賞 Spårhunden	子ども向け推理小説に対する賞。雑誌「Jury」により創設。現在はスウェーデン推理小説協会により授与 https://www.deckarakademin.se/sparhunden/	参考
15	エーミル賞 Emilpriset	子どもへの文化貢献に対してスモーランド・アカデミーが選定 http://www.smalandsakademi.se/?page_id=273	参考
16	ガリバー賞 Gulliverpriset	批評的、実践的活動を通して児童文化に貢献した人に対して IBBY Sweden が選定 https://ibby.se/	参考
17	ピーターパン賞 Peter Pan-priset	翻訳児童文学に対して IBBY Sweden が選定 https://ibby.se/	参考
18	オットィリア・アーデルボルグ賞 Ottilia Adelborg-priset	ガングネフ地方自治体（コミューン）選定 子どもの本の女性画家に対する文学賞 https://www.gagnef.se/kultur-och-fritid/kultur/ottilia-adelborg-priset/	参考
19	パンダ賞	自然描写にすぐれた児童図書について WWF スウ	参考

	Årets Pandabok	エーデンが選定 https://www.wwf.se/	
20	マリア・グリーペ賞 Maria Gripe-priset	児童書出版社 Bonnier Carlsen 選定 (2005年～2008年)	参考
21	スウェーデン・アカデミー児童青少年文学作家賞 Svenska Akademiens pris till framstående författare av barn- och ungdomslitteratur	スウェーデン・アカデミー選定 (2021年～) https://www.svenskaakademien.se/akademiens-priser	参考

3-3-2 スウェーデンを含む地域的な児童文学賞

No.	賞名	概要
1	ドイツ児童文学賞 Deutsche Jugendliteraturpreis	ドイツ政府による国際的な児童文学賞 スウェーデンの作家・作品も受賞している https://www.jugendliteratur.org/deutscher-jugendliteraturpreis/c-62
2	北欧理事会児童青少年文学賞 Nordiska rådets barn- och ungdomslitteraturpris	北欧の言語で書かれた児童青少年文学(詩、散文、戯作)から北欧理事会が選定。少数言語で書かれた作品を含めた北欧児童青少年文学の全体像や、北欧社会が児童文学に向ける関心の傾向が窺われる賞である https://www.norden.org/sv

3-3 関連団体

No	出版社・団体名	概要	選書対象
1	スウェーデン児童図書研究所 Svenska Barnboksinstitu	児童図書の収集研究をおこなう非営利団体。毎年児童書の統計を発表するほか、論文集、研究書の発行をおこなう。 https://www.barnboksinstitutet.se/	スウェーデン児童図書研究所叢書 https://www.barnboksinstitutet.se/forskning/skriftserien/

	tet (Sbi)		
2	スウェーデン 図書館協会 Svensk Biblioteksforen ing	エルサ・ベスコフ賞、ニルス・ ホルゲション賞の選定授与を おこなう。 https://biblioteksforeningen.se	エルサ・ベスコフ賞、 ニルス・ホルゲション賞を網羅 的に収集
3	スウェーデン 文化評議会 Kulturrådet	文化政策をおこなう政府機関。 毎年推薦図書リスト <i>Barn- och ungdomsbokskatalogen</i> を発行。 https://kulturradet.se	<i>Barn- och ungdomsbokskatalogen</i> 2023/24 https://www.kulturradet.se/publikati oner/barn--och- ungdomsbokskatalogen-202324/ 他 ¹² <i>Swedish books for young readers(2020)</i> ¹³ https://www.kulturradet.se/publikati oner/swedish-books-for-young- readers/
4	IBBY Sweden	IBBY のスウェーデン支部。ピ ーターパン賞等の選定授与を おこなう。 https://ibby.se/	Web サイトをレファレンス等に 活用
5	ストックホルム 大学児童文 化研究センタ ー Stockholms universitet Centrum för barnkulturforsk ning	ストックホルム大学に設置さ れている児童文化研究機関。一 般に向けたシンポジウムの開 催や研究叢書の発行もおこな う。 https://www.su.se/centrum-for- barnkulturforskning/	児童文化研究叢書 (Barnkulturskrifter) https://www.su.se/centrum-for-barn kulturforskning/om-centrumet/skrif tserie-1.609115?open-collapse-box es=ccbd-f%C3%B6rteckning%C 3%B6versamligaskrifter
6	子ども図書館 Barnensbibliote	デジタル図書館。児童文学の情 報提供をおこなうほか、読者自	Web サイトをレファレンス等に 活用

¹² ブックリスト No.75、76、77、78、79

¹³ ブックリスト No.80

	k.se	身の読書感想も掲載する。 https://www.barnensbibliotek.se/	
7	読書休暇 Läslov	子どもの読書支援をおこなう 非営利団体。読書休暇のイベン ト企画や情報提供をおこなう。 https://xn--lslov-gra.se/	Web サイトをレファレンス等に 活用
8	文学バンク Litteraturbanke n	スウェーデン文学のデジタル アーカイブ。横断検索システム Libris からも検索可能。 https://litteraturbanken.se/	Web サイトをレファレンス等に 活用
9	ALVIN	ウプサラ大学図書館、ルンド大 学図書館、ヨテボリ大学図書館 共同によるデジタルアーカイ ブ。 https://www.alvin-portal.org/alvin/home.jsf?dswid=-5558	Web サイトをレファレンス等に 活用
10	スウェーデ ン・アクセシ ブル・メディ ア庁 (MTM)	読み書きに困難を抱える人々 が読書を楽しむための研究や 製品の紹介、支援をおこなう。 https://www.mtm.se/	Web サイトをレファレンス等に 活用

参考文献

『北欧からのおくりもの 子どもの本のあゆみ』福井信子、菱木晃子、稲垣美晴監修、国立国会図書館国際子ども図書館編集、国立国会図書館国際子ども図書館、2006【UP49-H68】

『読書を支えるスウェーデンの公共図書館』小林ソーデルマン淳子、吉田右子、和気尚美、新評論、2012【UL252-J6】

『大人が味わうスウェーデン児童文学』菱木晃子、NHK 出版、2017【Y94-L40198】

「小特集 北欧のコミュニティと公共図書館：スウェーデン」小林ソーデルマン淳子. 『カレントウェアネス No.295』 2018

<https://dl.ndl.go.jp/pid/287001>

Children's Literature in Sweden. Boel Westin, 2nd, Stockholm, Swedish Institute c1996【YZ-B639】

Den tidiga barnboken i Sverige. Göte Klingberg, Natur och Kultur,1998【YZ55-A115】

*Contemporary Swedish Illustrators: Sweden Guest of Honour in Bologna 2013.*The Swedish Art Council, 2013